

兵庫教区「法」シリーズ 108

# お彼岸

一人の人生であつても  
決して  
独りではなかつた

Though it is your life and you may have felt lonely,  
you come to realize you were not alone.

真宗教団連合2026年法語カレンダーより



御同朋の社会をめざす運動(実践運動)  
兵庫教区委員会

## 『お彼岸に思う』

春のお彼岸の前に、母が往生しました。数えて81歳となる年でした。闘病中でしたが、最後はあつという間に弱っていきってしまいました。その時のお彼岸のお参りのことはあまり覚えていません。

お彼岸は、正式には「彼岸会」といい、春と秋に、それぞれ春分の日と秋分の日を中日として前後二日間の計七日間にわたって行われます。日本独特の仏教行事で、聖徳太子のころに始まったと伝えられ、江戸時代には年中行事として定着しました。

浄土真宗では、お彼岸をご縁に「阿弥陀さまのお心」を聞かせていただくことを大切にしています。

母にはいろいろなことを教わりました。ご飯の炊き方、お味噌汁の作り方、肉じゃがの作り方……。母は尼崎出身ですが、姫路のお寺に嫁いでは、姫路おでんやイカナゴのくぎ煮など、播州のご当地メニューもせっせと作りました。そしてお寺でのお参りでは毎年おでんを作ってもてなしていました。「お母さんのおでんが食べたくてお参りに来たよ」と楽しみにしてくださっている方もいました。そのおでんも、もちろん教えてもらいました。イカナゴのくぎ煮もレシピを教えてもらいました。春のお彼岸には「ぼたもち」を、秋のお彼岸には「おはぎ」を手作りしていました。これはまだ教えてもらっていません。今度、見よう見まねで作ってみたいと思います。

他にも、母からさまざまなお心も教えてもらいました。その中で一番大事なことは「阿弥陀さまのお心」です。

阿弥陀さまという仏さまは、「生きとし生けるものすべてを 必ず救う」と誓われて仏さまになられました。そして、この世の命を終えたあと、生まれて仏となる場所「お浄土」をご用意くださいました。そのことを「仏説阿弥陀経」というお経の中で「俱会一処」とお示しくださっています。「俱に一処で会う」と書き下します。この世の命を終えたあと、また会える世界があるのです。母も、その五年前に往生した妹も、そこで会っていることでしょう。私も、母や妹にお浄土できっとまた会えると思えば、それまでがんばっていかなければと、なんとか思うことができるのです。

如来大悲の恩徳は

身を粉にしても報ずべし

師主知識の恩徳も

骨を砕きても謝すべし

（親鸞聖人）

母に教えてもらったこの「恩徳讃」も、「南無阿弥陀仏」を伝えてくださったたくさんのお浄土への恩徳を思いながら味わわせていただきたく思います。



姫路東組 願正寺 谷川洋子